

第 14 回視覚障害者全国交流登山大会無事終了



国立磐梯青少年交流の家の前で

当法人が主催した第 14 回視覚障害者全国交流登山大会が、9 月 13 日～15 日に国立磐梯青少年交流の家で実施され、無事に終了することができました。大会には、全国から視覚障害者の人たちと登山を行う 13 団体（252 人）が集い、登山や交流会、懇親会などを楽しみながら交流を図りました。交流登山が成功したのは、実行委員のがんばりと共に、多くの方から支援していただいたおかげです。深く感謝申し上げます。（以下敬称を略させていただきます）

1. 協力・協賛

六つ星山の会、福島県山岳連盟、あだたら山の会、石城山岳会、猪苗代山岳会、杉妻芸能協会、富士ゼロックス端数倶楽部、富士ゼロックス株式会社、株式会社モンベル、赤城自然園（株式会社クレディセゾン）

2. 参加団体（（）内は参加人数）

六つ星山の会(32)、京都山の子会(37)、富山三つ星山の会(27)、岡山こまくさ HC(21)、山口ささゆり会(20)、歩く会「友遊」(16)、NPO 法人 HC かざぐるま(18)、新潟あいゆー山の会(15)、山ネット(12)、ポレポレ山楽会(11)、しまね四季の学舎(9)、HC かめ 2003(2)、NPO 法人山仲間アルプ(32)→山仲間アルプには、赤城自然園の 2 人、石巻の 4 人を含む。

3. 登山状況

・磐梯山 121名（視覚障害者 28名、晴眼者 78名、石城山岳会 12名、猪苗代山岳会 3名）

リーダー：相澤篤 サブリーダー：町田清矩(六つ星山の会) 班長：中村浩子、杉野俊子、鳥海進太郎、茅原良一、梅田ちはる、六つ星山の会から赤石和秋、塩野圭子、秋山征二

・安達太良山 126名（視覚障害者 33名、晴眼者 81名、あだたら山の会 12名）

リーダー：八木原健一(六つ星山の会) サブリーダー：柴田秀男(六つ星山の会) 班長：柏樹節子、中村静子、小賀野信子、見神廣和、六つ星山の会から高橋和佳子、佐藤誠二、松本克彦、高橋徳男、三谷博志

・五色沼 33名（視覚障害者 9名、晴眼者 22名、福島県山岳連盟 2名）

リーダー：山口雅章 サブリーダー：田村猛(六つ星山の会) 班長：中村和子、水野重之

4. 登山以外の催し物等

- ・開会式：司会 朝木けい子、中村浩子
- ・代表者会議：第6研修室で実施（次回以降の交流登山について検討）
- ・班長会議：第6研修室で実施（2日目の登山についての注意事項確認）
- ・団体紹介：司会 高橋とく
- ・懇親会：ビューラウンジ及びラウンジで実施
- ・親睦交流会：司会 中村和子 杉妻芸能協会のみなさんから民謡や踊り披露、富山三つ星山の会のプロピアニスト TOUTA 氏のピアノ演奏他
- ・自由交流会：総合研修館で実施
- ・閉会式：司会 栗谷川雅人

5. 実行委員

網干勝、佐藤啓司、相澤篤、山口雅章、水野重之、見神廣和、中村和子、中村浩子、茅原良一、小賀野信子、柏樹節子、箕輪俊男、朝木けい子、齊藤光英、梅田ちはる、鳥海進太郎、深澤由美子、松元梢、六つ星山の会から新海吉治、田村猛、町田清矩、八木原健一

6. 次回交流登山

主催団体：広島 歩く会「友遊」

日程：平成28年3月4日(金)～6日(日) 2泊3日

会場：宮島ホテルまこと

登山対象：弥山（標高535m）

費用：25,000円程度（2泊5食）

交流登山のビデオをYouTubeで公開中です。下記アドレスをご覧ください。

ビデオ：http://youtu.be/y2Ca_tN00cE

交流登山の様子は、福島県山岳連盟尾形会長のお力添えにより福島民報と福島民友に記事として掲載されました。また、六つ星山の会の木村様のお力添えにより読売新聞に記事として掲載されました。山岳雑誌『岳人』11月号にも記事として掲載されました。

次回は広島で開催されます。ぜひ多くのメンバーで訪れましょう！

山行報告

★登山知識及び技術向上コース（谷川連峰縦走）（9月20日～21日）

参加者 会員(健常者3名)

☆9月20日

上野駅から各駅停車で高崎駅に行き、さらに水上で乗り換えて、土合駅に到着。駅に着くと中学生か高校生かはっきりしないが、多くの子どもたちが一緒に降りた。張り合ったわけではないが、トップで土合駅の改札に着く。

この子どもたちがロープウェイ駅に着く前に、先に行こうと歩き始める。

3連休の初日で天気も良いが、ロープウェイは並ぶこともなく、すぐに乗れた。

ロープウェイが上の駅に着くとすぐに歩き始める。今日は、素晴らしい天気だ。白毛門や笠ヶ岳、朝日岳がよく見え、その左手には、尾瀬の至仏山、笠ヶ岳が見える。その左には上州武尊山もよく見える。これから向かう谷川岳もよく見えている。

何度も登っている天神尾根を登る。紅葉はまだ早い、ウルシは赤く紅葉していた。岩場をできるだけ手を使わずに登ろうとメンバーに伝える。できるだけ手を使わずに登ることは、一番のバランス訓練になる。バランスが良くなると、歩行が安定し、視覚障害者の人たちのサポートにもプラスになる。

しかし、ふくらはぎへの負担が増すため、Kさんが山頂直下で足をつってしまった。手を使わない歩き方が負担になったのだと思う。Tさんがすぐに漢方薬を飲ませてあげると、その後、足をつることはなかった。

ただ、小屋に着いたら、一ノ倉沢を俯瞰できるノゾキまで行こうと話していたが、Kさんは止めておくことにするという。Tさんと二人で、小屋まで先行し、荷物の一部を置いてノゾキに向かう。

トマの耳を超えたとたんに、すばらしい紅葉の山腹が広がる。オキの耳の新潟県側斜面はすばらしい紅葉だ。あとで、小屋の方に聞いたら、例年より1週間ほど早いという。今回は、とてもラッキーだった。



オキの耳を過ぎ、群馬県側を覗くと一ノ倉沢が見えるようになる。切り立った衝立岩が見える。ノゾキまで行くとテールリッジや南稜テラス付近、衝立スラブなどがよく見える。残雪もまだある。烏帽子岩南稜を登っている人も見えた。

ノゾキから引き返すが、このすばらしい紅葉を小屋で休んでいて見ないのでは、もったいないと思っていたが、Kさんがオキの耳まで来ていた。明日歩くオジカ沢の頭は、逆光を受けて、クマザサが光っていた。

夕食後は、肩の小屋で歌が始まり、他の登山者の人たちと交流したらしい。私はほとんど覚えていないのだが？

☆9月21日

今日は5時に出発したいと話したら、小屋の方は通常 6:00 からの朝食を私たちだけ、4:30 からにしてくださいました。お湯も水も無料でいただける、こんな対応をしていただける管理人さんと水上町のみなさまに感謝です。

日の出前だが明るくなった空の下で、肩の小

屋をあとに出発する。

しばらく下り、少し登り始めた頃、朝日が昇ってきた。これから登るオジカ沢の頭が真っ赤に染まり、色づいた紅葉を一層赤く染め上げている。オジカ沢の頭への登りは、次第に急になり、さらに痩せ尾根となる。鎖の付いた岩場も超えて、群馬県側をトラバース気味に行くと、オジカ沢の頭避難小屋が見えてくる。小屋の手前でピークに登る。

これから向かう万太郎山が朝日を受けて、立派な山体で佇んでいる。近そうに見えるが、山頂までは2つのピークを越えていかなければならない。



万太郎山を見ながら国境稜線を行く

小障子の頭から大障子の頭までは、緩やかでたおやかな尾根が続く。とても気持ちよく歩けるところだ。小障子の頭を過ぎると水場への道を分ける。さらに少し行くと、少し大きめの大障子避難小屋がある。

大障子の頭からの下りは、少し岩場があるが、特に危険ではない。そしていよいよ万太郎山への登りにかかる。万太郎山も新潟県側の紅葉が素晴らしい。

ここまで全く人に会わなかったが、吾策新道を登ってきた人や平標山から来た人に会うようになった。それでも、このコースは仙ノ倉山までほんの数人しか会わない静かなコースだ。

万太郎山に登ると、福島県から来た人に出会う。先週、安達太良山に登ったらしい。視覚障害者交流登山で大勢登ったことも知っていて、混雑させてしまったことを謝る。数人しか会わ

ないコースで、先週も同じ山に登った人と出会うとは、何という偶然なんだろうか？



万太郎山山頂にて

万太郎山からは、これから向かうエビス大黒の頭と仙ノ倉山が遮るものなく見えるようになる。振り返ると、歩いてきた谷川岳から続く稜線がよく見える。今日歩くコースのまだ半分も歩いていない。

万太郎山から紅葉の美しい尾根に向かうが、ここは両側が切れた痩せ尾根だ。ふらつかないように慎重に進む。



紅葉の美しい痩せ尾根を行く

痩せ尾根を超えて振り返ると、万太郎山の山腹は、ここでも美しい。さらにぐんぐん下って行くと、越路避難小屋に到着する。この小屋も比較的大きく7人くらいは泊まれるようだ。ここで休憩せず、最低鞍部となる毛渡乗越に向かう。

毛渡乗越で昼食を取り、エビス大黒の頭への登りにかかる。ここも急坂が続く。昭文社の地図を見ると、エビス大黒からの下りは急坂で岩場があるということなので、いつでもロープでつなぎ合えるように、ソウンスリングを体に巻

いて備える。疲れがたまってきている時間帯なので、慎重を期すこととした。



しかし、エビス大黒の頭からの下りは難なく通過する。そして、エビス大黒避難小屋から、このコースの最高峰、仙ノ倉山への登りが始まる。予定より、30分以上遅れいているが、順調に登っている。仙ノ倉山の山頂直下に来ると、すばらしい紅葉が待っていた。真っ赤に染まったもみじの中を歩くと、仙ノ倉山に到着。一気に人が増えた。



仙ノ倉山まで来ると、ここから先は全く危険なところがなく、安心して歩ける。ただ、疲れがあるので、気を抜かないようにすることが大切だ。

ここまでで、十分に紅葉を楽しんだと思ったら、なんと最高の紅葉はここから先にあった。仙ノ倉山と平標山の間稜線は、一部分で真っ赤に染まって最高の紅葉を見せている。しかも登山道はその中に付けられている。この世のものとは思えないほど、美しいもみじの中を歩いて行く。ただ、この頃から仙ノ倉山が雲に包ま

れ、平標山も雲に包まれてしまった。



平標山の山頂に立ち、平標山の家を下る。山の家周辺は、黄色に染まる木々が多く、わずかに染まり始めているところだった。山の家周辺は風もありとても寒かったが、下り始めると標高も下がり、暑くなってきた。ここまでの激しいアップダウンの影響か、右膝が痛くなってきた。サポーターを巻いて下って行く。ようやく林道に出て、三国街道のバス停を目指す。



予定通りのバスに乗り、越後湯沢駅で温泉に入って汗を流した。思いがけず出会えたすばらしい紅葉を胸に、乗った新幹線は、新潟行きだった。最後にとんだハプニング。しかし、すぐに気づいて、浦佐駅で上り電車に乗り換えて、大都会へと向かった。 記：網干

コースタイム

9/20 天神平(11:00)…熊穴沢避難小屋(11:45-12:15)…肩の小屋(13:50-13:55)…ノゾキ(14:40)…肩の小屋(15:25)

9/21 肩の小屋(5:00) … オジカ沢の頭
(6:05-6:25) … 小障子の頭(7:00-
7:15) … 万太郎山(9:05-9:20) … 毛渡
乗越(10:05-10:30) … エビス大黒の

頭(11:55-12:00) … 仙ノ倉山
(13:10-13:20) … 平標山(14:00-
14:10) … 平標山の家(14:00-14:10)
… 平標山登山口(16:40)

★雨飾山(10月4日～5日)

参加者 会員(障害者1名、健常者5名)

☆10月4日

台風が近づいているが、新潟県の下越地方や富山県は、4日がますますの天気、5日も午前中が曇り、午後から雨になる予報だったので、実施することとする。ただ、笹平から小谷温泉側に下るコースは、急坂で厳しいので、状況によっては同じコースを引き返すことを念頭に出発する。

根知駅に着き山口行きのバス停を探すが、なかなか見つからないと思っていたら、他のメンバーが2人だけ乗っていった。予定ではバスだったが、長い車道を歩くより、タクシーで雨飾温泉まで行ってしまった方が良いという意見もあり、最終的に残った4人はタクシーで雨飾温泉まで行くことになった。



雨飾山荘

山口から歩いている2人をタクシーで抜いて、4人は先に雨飾温泉に着く。先に温泉に入り、のどを潤しながら待つことになる。時々、かなり強い雨も降ったが、若い2人は元気に雨飾温泉に到着した。

夕食後は、隣の別グループと一緒に歌を歌って楽しむ。2日目、雨飾温泉をあとにする時、女将さんが、「本当に楽しい会ですね。いつもこうなんですか?」と聞く。「そうなんです。いつもあんな感じですよ」と言うと、「いいですね～」とうらやましそだった。

☆10月5日

雨飾山荘は、朝食時間を出発時間に合わせて準備してくれる。4時に朝食をいただいた後、ちょっとトイレに時間を取られたこともあり、5時に出発する。まだ曇り空で雨は降っていない。山荘の周辺はまだ風もない。私たちよりも早く1パーティーが出発していった。



急な登りが続く

ヘッドランプを付けて、くらい山道を、滑りやすい石に注意しながら登っていく。FさんのサポートをCさんが行っている。くらい中、滑りやすいところをしっかりとサポートしている。

とにかく、急登が続く。急坂を登っていくと、難所ノゾキに到着する。ここで薬師尾根上に上がったことになる。樹林の間から糸魚川の海岸線が見えるようになる。左後ろには、海谷山塊の鋸岳と鬼が面山が見えてくる。



鬼が面山(左)と鋸岳(右)

片側の切れた痩せ尾根や杉の巨木が現れてくる。さらに急坂を登っていくと、アルミのはしごが現れた。ここを登ると、「一ぶく処」の案内板が現れる。さらに登ると、山腹をトラバースするようになる。ぬかるんだ道が多くなる。小さな池が現れるが、これはまだ中ノ池ではないだろうと思い、さらに進んでみる。先頭を歩くTさんが中ノ池を見つけた。



中ノ池にて

私の持っている 1994 年版昭文社の地図は、雨飾温泉から笹平まで3時間になっているが、新しい地図は中ノ池まで3時間になっているらしい。時間的にかなり厳しいことと、風がかなり強くなってきたため、ここで引き返すことにする。ここから少し上はガスに包まれている。

★朝日岳・三本槍岳(10月11日～12日)

参加者 会員(障害者2名、健常者9名)

会員外(健常者3名)

昼食を摂り、下山にかかると、雨が降り始めてきた。滑りやすく厳しい下りが続くので、Fさんと、FさんのサポートをするTさんとCさん、それに私がロープでつなぎ合って下山する。女性2人は自己責任で下ってもらうことにする。

雨は降ったり止んだりで強くなることはなかったが、風はごうごうという音を立て、木々を揺らしている。先行したパーティーは山頂に向かったのだろうか？ 今回は、このパーティー以外、誰にも会わなかった。

無事に下山し、雨飾温泉に入る。タクシーを女将さんに呼んでもらったが、タクシー会社の受付の人が、時間を1時間間違ってしまった。予定の電車に乗れなくなってしまった。女将さんは、こんなことは初めてだとあきれていたが、根知までの料金で南小谷まで送ってくれるということなので、まあ仕方ない。1本遅れた電車で行くことにしよう。

南小谷駅に着くと、朝、先行したパーティーがいた。話を聞くと、予定通り小谷温泉に下山したらしい。稜線は猛烈な風が吹いていたらしい。ただ、笹平からの下りはそれほど風は強くなかったようだ。

鈍行列車に揺られて、信濃大町で乗り換え、さらに松本でスーパーあずさに乗り換えて、帰宅の途につく。関東は、激しい雨が降っていた。

記：網干

コースタイム

10/5 雨飾山荘(5:00)…中ノ池(8:10-8:50)
…雨飾山荘(12:20)

☆10月11日

この週末は、台風が近づいているため、いつも以上に天気予報とにらめっこだった。土曜日は何とか雨は大丈夫そうだったが、日曜日は雨

が降る可能性が高かった。しかし、近づくにつれて予報が好天になってくる。

当日、家を出る時は、曇り空だった。早い電車で先に那須塩原に着いているKSさんから、メールで那須はすばらしい天気だと連絡が入る。いつの間にか曇り空はどこかに行き、那須塩原に着くとすばらしい天気だった。

バスに乗り、終点のロープウェイ山麓駅に到着する。周囲はまだまだ紅葉が楽しめた。快晴のすばらしい天気だ。

自己紹介の後、広い登山道を登り始める。会員外で今回が2回目の参加のYさんは、いつもながら陽気にいろんな歌を歌っている。本当に楽しい人だ。

次第に岩の道となり、明日登る朝日岳が右手によく見えるようになる。鬼面山方面は、クマザサの緑の絨毯の上に点在する紅葉がきれいだった。

鎖場を通り過ぎると峰の茶屋跡避難小屋がよく見えるようになる。避難小屋で昼食タイムとする。風が吹き抜けるため寒いので、風の来ない場所を探して弁当を食べる。茶臼岳の山腹からは、蒸気が噴き出している。御嶽山が噴火して間もないため、那須岳の火山活動が活発にならないように祈るばかりだ。



朝日岳を背に牛ヶ首に向かう

避難小屋からは茶臼岳の山腹をトラバースして牛ヶ首に向かう。振り返ると朝日岳方面まで植物がほとんど生えていない殺伐とした風景が広がる。しかし、下を見ると姥が平付近の紅葉が、終わりが近いにも関わらずまだ楽しめ

る。さらに進むと、水蒸気の噴出口が近くにある。手を近づけると暖かい。視覚障害者のAさんやMさんにも近づけてもらう。しかし、近づけすぎると熱いので注意が必要だ。無間地獄では、硫黄のにおいが強く、蒸気も強く噴出している。



姥が平付近の紅葉と大倉山

牛ヶ首の手前から姥が平に下りる。姥が平周辺の紅葉は、もうピークを2週間ほど前に過ぎたようだが、まだまだ紅葉を楽しめた。瓢箪池にも立ち寄る。風が弱くなって波が小さくなると、湖面に茶臼岳が映り、周囲の紅葉と相まってとても美しい。



瓢箪池

姥が平からいったん下って、山腹のトラバース道に移る。意外に岩の多い道で、少し時間がかかった。それでも、沢に架かる橋を過ぎ、急坂を登って峰の茶屋跡から来る登山道に合流すると、三斗小屋温泉は近い。周囲の紅葉もまだまだきれいだった。後ろを歩く2班とはトランシーバーで交流する。トランシーバーはとても便利に使えた。

三斗小屋温泉は、露天風呂のある煙草屋に泊

まる。女性陣は何人かが露天風呂に入ったようだ。男性陣は内湯に入る。すぐに夕食となり、お膳に乗ったおいしい食事をいただく。

☆10月12日

昨夜は露天風呂に入らなかったの、露天風呂を見に行く。とても展望の良いところにある露天風呂だった。雲海に浮かぶ山々やその向こうに尾瀬の燧ヶ岳も見えた。



三斗小屋温泉・煙草屋旅館の前で

煙草屋旅館の前で集合写真を撮り、登山道を登り始める。さすがにまだ寒い。すぐに三斗小屋温泉神社本殿を通り過ぎる。さらに登っていくと、三斗小屋温泉の源泉がある。蒸気の吹き出しがすごい。さらに登っていくと、鎖場があり、その上で隠居倉からの尾根に飛び出す。展望が一気に開けると共に、太陽が当たって暑くなる。服を一枚脱ぎ、展望を楽しむ。日留賀岳方面や燧ヶ岳方面がよく見えている。周囲の紅葉も美しい。



日留賀岳や日光方面を背に登る

さらに隠居倉に登ると、今まで見えなかった三本槍岳がよく見えるようになる。飯豊連峰や

日光の女峰山などもよく見える。三本槍岳の山腹のダケカンハは、クマザサの緑に浮き立ってとてもきれいだ。

隠居倉からの下りは岩場もあり、注意が必要だった。片側が切れたところやガレ場を過ぎ、峰の茶屋から三本槍岳に続く稜線に飛び出す。遠くに 磐梯山と吾妻連峰も見えている。

隣の 1900m 峰に登ると、安達太良山も見えてきた。流石山や大倉山はすぐ近くにあるが、今までとは違う角度で見える。清水平にいったん下りて、また登り返す。北温泉分岐を過ぎ、少しくだって、三本槍岳への最後の登りにかかる。急ではないが、何度もアップダウンを繰り返すので、さすがに疲れも出てきた。それでも、360 度の大展望の三本槍岳に着くと疲れも吹き飛ばす。今まで見えなかった朝日連峰も見える。大倉山などの右手には、浅草岳や守門岳も見えている。北は安達太良山や吾妻連峰、磐梯山、そして西の上越の山々、南には日留賀岳や日光の山々が見え、太平洋側は一面の大雲海だ。



稜線から見た茶臼岳方面

すばらしい展望を楽しんだ後は、来た道を引き返し、朝日岳に向かう。とにかく関東平野は、一面の大雲海に沈んでいる。見事な雲海だ。

茶臼岳を正面に見ながら来た道を引き返し、分岐から朝日岳への最後の登りにかかる。岩場を慎重に登って、朝日岳の山頂に到着。今日は、昨日以上に良い天気で、無風快晴だ。しかし、午後になると、上空に絹雲が見られるようになり、西の空には白い雲も見られるようになってきた。台風雲が近づいているに違いない。



三本槍岳山頂にて

朝日岳の山頂を後にして、今回の登山の一番の難所を下ることになる。小石に足を取られて滑りやすいところを下る。振り返るとみんなの頭上には真っ青な空が広がる。まさにピーカン。

片側が切れた岩場に付いた鎖場を通過し、さらに鎖の付いた山腹のトラバースにかかる。さすがに岩場の連続だ。ようやく剣ヶ峰とのコルに着く。剣ヶ峰の手前にはおもしろい形をした岩塔が立っている。剣ヶ峰のトラバース道は比較的歩きやすい。小さな穂が逆光に光っている。

峰の茶屋で休憩し、山麓駅を目指して下る。予定より大幅に遅れたが、全員無事に下山した。帰りのバスは、高速道路に乗るマイカーの大渋

★ハンゼノ頭(10月26日)

参加者 会員(障害者2名、健常者9名)
会員外(健常者3名)

塩山駅からタクシーに分乗して柳沢峠に向かう。車道からは富士山がよく見えた。今日は、曇りで午後一時雨の予報だが、雲が多いものの気持ちの良い青空が広がっている。

柳沢峠からも富士山が見えたが、雲に覆われて次第に見えなくなっていった。しかし、峠付近の紅葉はなかなかきれいだった。バイクの集団がひっきりなしに峠を越えていく。スポーツカーに乗った人も登ってきた。

滞に引っかかり、ここでも大幅に時間が遅れた。それでも、みんな駅でラーメンを食べて、帰りの新幹線に乗り込んだ。 記：網干



尾瀬・上越方面を臨む

コースタイム

10/11 山麓駅(10:40)…峰の茶屋跡避難小屋(12:05-12:35)…姥が平(13:50-14:00)…三斗小屋温泉(15:45)

10/12 三斗小屋温泉(6:50)…隠居倉(8:15)…稜線(9:05-9:15)…清水平(9:40-9:55)…三本槍岳(10:40-11:00)…清水平(11:40-12:00)…朝日岳(12:50-12:55)…峰の茶屋跡避難小屋(13:45-14:00)…山麓駅(14:50)



柳沢峠付近の紅葉

声出しをした後、まずは柳沢ノ頭を目指して登っていく。時々、はっとするほどきれいに紅葉した木々が現れる。「どうきれいでしょ？」という女性もいるが、「きれいですね・・・、背景が」と答える。前回の岩登り講習会に続いて、今回が2回目参加の若いKさんは、子ど

もたちと手をつないで歩いている。



紅葉した山道を登る

Tさんも前回の朝日岳に続いて2回目の参加だ。KさんもTさんもすっかり打ち解けていて、会員同士という感じだ。以前、退会した人が、久しぶりに会員外で参加した時、何の違和感もなく同じ仲間として接してもらえてうれしかったと行っていたが、山仲間アルプの基本理念である「みんな仲間だよ！」が、みんなに浸透しているだろうと思ってうれしくなる。

今回は、前回の朝日岳に続いてトランシーバーを持ってきた。最初は照れていたY君は、トランシーバーで話し続けるようになった。相手をしているMさんは、ちょっと疲れ気味。少し休もうと言っても話しを止めない。よほど気に入ったようだ。

緩やかに登っていくと稜線らしいところに飛び出した。柳沢ノ頭はすぐそこだった。展望は抜群。残念ながら富士山は雲に隠れてしまったが、麓の町や周囲の山々が美しい。

少し長目に休憩した後、ハンゼノ頭に向かう。ハンゼノ頭はさらに展望が良かった。南アルプス方面は山頂を雲に隠していたが、奥秩父方面は山頂が見える山もある。金峰山などは残念ながら雲の中だった。しかし、大菩薩嶺はとてもよく見え、笠取山から東の山は山頂が見えていた。山座同定はなかなか難しかったが、展望板があって、だいたいのところは分かった。

ハンゼノ頭で昼食を食べて、次の目的地板橋峠に向かう。途中、レンゲツツジの大群落がある分岐点で、帰りに車道を歩くなら引き返そう

という話が出たが、時間をもてあましてしまうため、予定通り行くこととする。分岐周辺にはマユミの木が多く、淡いピンク色の実がきれいだった。



ハンゼノ頭にて

時々樹林が切れて展望の良いところを通り過ぎる。飛龍山も見えていたのではないかと思った。



柳沢峠付近の林道にて

板橋峠への下りにかかると、太陽光発電所が見える。ソーラーパネルがたくさん並んでいる。峠への下りは、今日一番の急坂だ。全く危険はないが、ゆっくりと下ってきてもらう。

峠の手前で林道に下り、柳沢峠に戻ることにする。林道は舗装されていなくて歩きやすかった。また、紅葉もすばらしく、所々、目を見張るところがあった。

子どもたちにアイスクリームをねだられ、峠の茶屋で買ってあげる。大人は、麦のジュースで乾杯。軽い疲労感で心地よい一日でした。

コースタイム

柳沢峠(10:25)…柳沢ノ頭(11:10-11:30)…

ハンゼノ頭(11:45-12:30)…板橋峠(13:40)

…柳沢峠(15:00)

★石砂山(10月30日)

参加者 会員(障害者4名、健常者6名)
会員外(健常者1名)

なおかずやリンゴが振る舞われて、おなかうれしい悲鳴を上げていた。

昨日の雨は予報よりも早く上がり、夕方には青空が広がっていた。今日はきっとすばらしい天気にも恵まれると期待して、新宿から電車に乗る。空にはすばらしい青空が広がっている。

ところが、相模湖に着くと、空はどんよりしている。それでも予報を信じて、タクシーに分乗して登山口の篠原へ。しばらくコンクリートの道を歩き、トイレを過ぎて沢を渡ってから山道に入る。いきなりの登りとなる。

暗い植林帯の道を登っていく。雑木林に入ると、まだまだ美しい紅葉がある。紅葉した落ち葉の絨毯もすばらしい。急な階段を登ると、石砂山の山頂に到着した。予定よりも30分ほど早い。昼食には早すぎるので、少し休憩して出発する。



石砂山山頂にて

山頂付近の落ち葉のないところはとても滑りやすいので要注意。山頂からの下りも階段だった。このコースは、東海自然歩道のため、道標などがしっかり整備されている。昼食の場所を探していたら、鉄塔のある展望の良い場所に出た。ここで昼食タイムとする。次々にいろん



紅葉したもみじの脇を歩く

5分ほど歩くと、伏馬田入口バス停方面の分岐だった。稜線をそのまま行く。伏馬田城址(尾崎城址)の分岐で、城址に行ってみようと思えば登り始めたら、かなり登るようなので城址に行くのは止めましょうということになる。



美しいもみじ

山腹をトラバースするコースは、片側が切れているので注意しながら進む。涸れ沢を横切るために付けられた、金属製のグレーチングの橋が中央部で完全に折れ曲がっている。ぎざぎざがあるのでほとんど滑らないが、慎重に通過する。

そこから少し行くと、民家が現れて、コンクリートの道になる。ここは、花街道らしい。さすがに今は花はほとんど咲いていない。

バス道路の横断している菅井で休憩していると、家の中からおじさんが顔を出した。「若

いお嬢さんたちの声がしたので出てきた」とのこと。出てきてみたら……。

菅井からはコンクリートの林道、そして土の林道に変わる。山道に変わり、これから登る峰山が見えてきた。低山ながらここも山頂の下は急登が続く。ようやく峰山に到着。ゴルフ場の向こうに最初に登った石砂山がよく見える。その左手には石老山も見えている。南側も開けていて、天気良ければ、丹沢山塊の向こう側に富士山も見えるのだが、残念ながら今日は、丹沢山塊も雲に隠れている。

峰山から少し下ると、風神・雷神・雨神の碑がある。さらに少し行くと、やまなみ温泉と東尾垂の湯の分岐となる。どちらに下っても温泉があるが、今回は計画通りやまなみ温泉側に行くことにする。

しかし、このコースは、滑りやすい急坂が続く。Sさん親子が一所懸命に下りてくる。滑っても大丈夫だが、転倒すると怖いので、私も振り返り振り返り下って行く。下りきると、「急坂コース」の看板が。この看板、上にはなかったな？

今回は、とにかく落ち葉がきれいだった。急

坂もきれいなところがあったが、その後もきれいな落ち葉の道が続く。低山ながらアップダウンが多く、急坂も多かった今回のコースも、ようやく民家が見えてきて、車道に出た。



やまなみ温泉に行くメンバーもいたが、私は同じ新宿集合組として、予定よりも一つ速いバスに乗って相模湖駅に向かった。参加したみなさま、お疲れ様でした。 記：網干

コースタイム

篠原(9:55)…石砂山(10:50-11:00)…鉄塔(11:40-12:15)…伏馬田入口分岐(12:20)…菅井(13:10-13:20)…峰山(14:20-14:35)…やまなみ温泉(15:30)

※参加者不足のため西御荷鉾山を中止としました。

※悪天候のため金時山が中止となりました。

ハイキング報告

★第38回ふれあいハイキング(六国見山)(10月19日)

参加者 会員(障害者3名、健常者10名)

の山行に参加するために来たんだよと言われ、うれしい予定外です。

今日は、円覚寺裏山にあたる六国見山である。

全員北鎌倉駅10時集合にし、早めに行ってホームで待っていたらなつかしいHさんとSさんに会いびっくり偶然ねと思ったらアルブ

駅の周りは、さすが鎌倉かなりの混雑でそうそうとトイレと声出しを済ませ、10時半に駅を出発。横須賀線を左に見ながら大船方面に向かって歩き出した。下見をしていたし、写真もとっていたし、まちがいないだろうと写っていた順番に進んでいったつもりでした。



昔この奥にある中華料理店にいく為に掘ったと言われるちょっと場違いなピンク色の入口を持つトンネルを抜け左に曲がると踏切がある。これは、通称権平踏切といってその昔権平さんが住んでいたためにその名がついたそうである。線路からはずれて住宅街を抜けていよいよ山に近づいて行くようになるのだが、どうも下見の時に歩いたはずの切り道しや小学校が出てこない。様子がおかしいと気付いたが、大船のSさんや良くこの辺を歩いているHさん・Sさんなどが、大丈夫このまま行っても着きますよと流石、地元人、半信半疑ながら森林公園入口にたどりついた。



下見の時とは、ちがう入口では、あるが、いよいよ山道。この入口は、直登なので早く頂上についてしまう。その前に休憩する事にした。30分の間に昼食と思われるほどの秋の味覚を堪能し、登りはじめて汗をかくほどでもなく10分ほどで展望台に到着。時間は、11時

40分。

展望台に立つと遠く横浜の海やみなとみらいの高い建物が見え左に三浦半島がかすんで見えていた。時には、富士山が見える事があるという。Mさんが、お湯を沸かして自慢のコーヒーをみなさんにふるまってくれ、マタマタ枝豆やくだもの・ゆで落花生・漬物などなどが出てきて持参したお弁当までたどり着けないほどである。

おやつをあれほど食べたはずなのにおしゃべりと笑う事は、かなりのカロリーを消費するものらしい。食事をゆっくり済ませ集合写真を撮りいよいよ下山。サポートは、ココロコ替ってもらい、今回は全員がそれぞれに合った状況でサポート経験してもらった。それがとても良かったと視障者のHさんからの感想である。



下山は、順調に1時間程で明月院の前に出た。ほどなく北鎌倉の駅に到着する。だがまだ時間は、13時半。今日の予定は、クリアしたので、歩き足りないという皆さんにリーダーから提案し、一度解散してここから建長寺や鶴岡八幡宮をみながら鎌倉まで歩くことにした。Sさんは、寺巡りは、何度も行っているのここからバスで帰ることにします。ということでSさんとは、ここでお別れです。

その後ゆるきゃら軍団は、建長寺で1000年の歴史に触れ八幡宮で倒れた銀杏の木の芽が出てきた生命力に感心し、鎌倉駅へと向かいました。これから山道を歩いてきた時間よりも

長い反省の時間の幕開けです。まずは、お疲れ様でした。楽しい時間を過ごさせてもらってありがとうございました。又、どこかの山でお会いしましょう。

記：中村(浩)

北鎌倉(10:10 発)…踏切(10:15)…森林公園入口(11:20-11:35)…展望台(11:45-12:30)…明月院(13:35)…北鎌倉駅手前の分岐(13:45)1次解散…建長寺(14:30-15:15)…鶴岡八幡宮(15:40)…鎌倉駅(16:00)

コースタイム

★第39回ふれあいハイキング(富士見塚)(11月16日)

参加者 会員(障害者3名、健常者8名)
会員外(健常者3名)

今回は、1193年、源頼朝が巻き狩りに向かう途中で、馬を止めて見入ったという美しい富士山が見えることを期待して御殿場線の上大井駅に集合した。

途中、小田急線の車窓や新松田駅では、雲の上に頭だけ出した富士山が見られた。天気予報では午後の方が晴れが多いようなので期待できそうだ。

瓢箪駅として有名な上大井駅を後に出発する。ハイキングコースは分岐毎に標識が整備されていて、迷うことはなさそうだ。刈り取りの済んだ田んぼなどを見ながら歩いて行く。アオサギも見られた。



アオサギ

了義寺は、雪舟派の絵師が描いた山水画があるようだが、今日は法事のお客さんがいるので、見せてもらえなかった。

かなり上り坂の農道を歩いて行くと、丁字が原農村公園に着く。ここから先に良い場所がないので、ここで少し早い昼食タイムとする。次から次と、いろんな食べ物が回ってきて、うれしい悲鳴となる。腹がかなり重くなった。

道路の反対側にある四季の里に立ち寄り、農産品を見る。フェイジョアという果物が売られている。味は分からないが、一袋100円という値段に引かれて、一袋買ってみる。買ったものは、まだ熟すまでに、日数が必要なようだ。



丁字が原農村公園にて

きれいに咲いている皇帝ダリアなどを見ながら歩き、東名高速道路の上を越える。下から見上げることは多いが、上から見下ろすのは珍しい。ミカン畑を両側に見て歩き、美化センターに着く。ここからネットの地図には道がないので、本当に富士見塚まで行かれるのか少し心配だったが、しっかりと山道が着いていた。標識も整備されている。

山道の脇を小さな沢が流れ、道の脇にはまだリンドウも咲いていた。山道を出て、車道を歩くと、地福寺に到着する。ドウダンツツジの紅葉が美しい。鳥の音がしたので、その方向を見

たら、どうもアオゲラのような感じだった。しっかり確認する時間もなく、どこかに飛んで行ってしまった。



樹齢800年以上といわれるシイの木の下をくぐり、さらに少し歩くと、目的地の富士見塚に到着する。石碑があるだけで何の変哲もない場所だ。富士山を探すが雲が多くてほとんど見えていない。何人かは、蜂蜜売りのおばさんに連れられて、蜂蜜を買いに行った。そのおばさんの旦那さんが、富士見塚で待っている私たちに、ミカンが11月20日になると一斉に収穫が始まることなどをいろいろ教えてくれる。うっすらと富士山も見えてきた。見晴台からは、矢倉岳、金時山、明神岳などの箱根の山々、松

田方面の市街地、そして相模湾が見えていた。

蜂蜜のおじさんから教えてもらった矢倉沢往還と呼ばれる旧道を下り、新松田駅を目指す。途中で、フェイジョアの木があり、地面に落ちている実もあったので食べてみると、トロピカルな感じの甘みがあった。

小田急線を横切り、川音川を渡って新松田駅に到着する。富士山はうっすらとしか見えなかったが、比較的あたたかな1日をゆっくりと楽しむことができました。 記：網干



コースタイム

上大井駅(10:10)…了義寺(10:40-10:45)…
丁字が原農村公園(11:20-12:15)…地福寺
(13:55-14:25)…新松田(15:10)

※参加者不足のため11月1日の岩登り技術講習会(日和田山)を中止としました。

個人山行報告

★赤城自然園(11月1日)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)

当初は冬山に備えて日和田山で「岩登り技術講習会」の予定だったが参加予定者が少なかつたためKさんの提案により群馬県にある赤城自然園に行くことになりました。これは交流登山に参加された赤城自然園のFご夫妻にいただいた無料券を有効に利用させていただいた

め。2014年のチケットのため来年は使えなくなってしまうので。

Kさんが高崎駅に早入りしてみんなの分の鳥飯を買っておいてくれました。電車の中ではK.N.さんが交流登山で記事になった新聞、雑誌などのコピーをみんなに配ってくれました。渋川駅に全員集合し、Kさんが予約してくれたジャンボタクシーでいざ赤城自然園へ。20分ほどで到着。

園内ではガイドツアーが 10時、13時と

2 回行われるが、10 時は間に合わないかと思われたがタクシーの中で N さんが園に電話をして待っていただくようお願いをしてくれました。小雨を気にしながら雨装備に変身した皆さんでしたが、たくさん用意された傘を見てしまい、思わず傘をさしてしまいました。



当日、F ご夫妻は不在でしたがガイドツアーをしてくださった園の N さんがとても丁寧に説明をしてくださいました。A さんが弱視であることを伝えると、園の N さんはできるだけ A さんに手で触ってもらうよう積極的に声をかけてくれました。

園内は人工的に作られた森ですが、とても自然な感じを受け、名前の通り赤城の自然を感じることができます。開園して 20 年目を迎えるようですが、森を作り始めてからは 30 年目になるそうです。

標高は 600m ほどですが高山植物をここで見られるよう工夫を重ねており、深まる秋の中、きれいな紅葉、黄葉が見られました。カエデも色々な種類があり、ハウチワカエデ、ウリハダカエデ、イロハカエデ、イタヤカエデなどを教えてもらいました。また、真っ赤に紅葉したカエデ科の「目薬の木」の特徴である 3 出複葉を A さんの手に乗せて分かりやすく解説してくれました。ミツデカエデを見ながらカエデ科の特徴である対生に出る葉もしっかり確認できました。

花はすでに枯れていましたが、アサギマダラが食べるフジバカマがたくさんありました。大

きな葉をもつトチノキはややオレンジ色に紅葉しており、手のひら状に 5 枚出ている特徴がありました。ブナの木もあり、ブナの葉の特徴である波打つような鋸歯（きょし）と葉の中央から鋸歯の谷間に伸びる葉脈を教わりました。コナラなどの葉と比較しながら紅葉の楽しみ方を教えていただきました。



また、愛子様のお印であるツツジ科のシロヤシオに関しては別名のゴヨウツツジ、松肌の理由を教わりました。途中、ホコリタケを見つけ皆でプシュプシュ押すたびに中から緑色の粉（孢子？）が出て最後はペシャンコになってしまいました。小さな赤い実が成ったガマズミではお腹がすきはじめてたのか食べられると分かると試食開始となりました。



最後は日本に 3 つだけ残っている原三角点（げんさんかくてん）のお話で、米山、雲取山、白髪岩のことを教わりました。ガイドツアーはここで終了となり、少し散策した後、お昼は昆虫館の休憩室で K さん購入の鳥飯をゆっくり食べることができました。

外の植物だけでなく、室内の昆虫館などもあり子供がカブトムシや蝶を楽しんで理解できるよう標本をかなり分解して展示しております。近くにはクヌギの木がたくさんあったので、夏は蜜を求めてカブトムシがたくさん来るかもしれません。ここ赤城自然園ではアサギマダラのマーキングにも力を入れていて、10月中なら体験できたかもしれません。

ガイドが終了してからも皆で知っている植物を教え合い、これは山椒の木で葉をこすると強いにおいがするよ、とか、これが木瓜(ボケ)だよ、と。また、白い小さなボール状のものをみつけて白玉の木の実だとはしゃいで舐めてみるとなぜか甘い？ これ1つだけ落ちていたのでたぶん子供のおかしだったのだろう。

あっという間に時間は過ぎ、最後に売店でお

土産を購入し、Kさん連絡の朝乗ってきたジャンボタクシーに乗り込みました。アルプNさんが調べてくれた温泉に寄る予定でしたがすでに閉鎖されていたようで、近くの道の駅によることにしましたが、タクシー料金が渋川駅と赤城自然園の固定往復料金のため寄り道するとメーター料金となり金額が上がるということだったのでまっすぐ駅に向かい、お酒を買い込んで無事列車に乗り込みました。(リーダー：柏樹) 記：鳥海

コースタイム

赤城自然園着(10:10) … ガイドツアー(10:20-11:30) … 自由散策 … 昆虫館でお昼(12:30-13:20) … 自由散策 … 退園(14:00)

各種連絡事項

☆臨時総会の開催予定

来年度の事業計画を決める臨時総会を下記の通り予定しています。

日時：平成27年1月31日(土)
13:30~14:30

場所：八千代台東南公民館会議室和室

議案書と詳細は追ってお知らせしますので、ぜひみなさまのご参加をお願いいたします。

★活動紹介映写会&第9回自然と親しむ子ども山登り教室説明会

活動紹介映写会及び第9回自然と親しむ子ども山登り教室説明会を右記の通り予定しています。ぜひ都合を付けてご参加ください。

日時：平成27年2月11日(水・祝日)
14:00~16:00

場所：八千代市総合生涯学習プラザ
多目的ホール

会員情報

◎9月以降、新たに入会された方はいません。

編集後記

・理事長のつづやき

外部団体の方の多大なる協力をいただくと共に、実行委員及び会員みんなが力を合わせて第14回視覚障害者全国交流登山を無事に終えることができました。会計報告、報告書、ビデオの発送も終え、ひとまず完全に交流登山から離れることができそうです。みなさまのご協力に感謝申し上げます。

交流登山に全力で取り組むことで、当法人の

本来の事業がどうしてもおろそかになり、参加人数が大きく減少してしまいました。

交流登山は、主催団体の負担があまりにも大きいいため、引き受ける団体が非常に少なく、継続できるかどうか難しい状況になっています。

今後の進め方については、各団体の代表者のみなさんと考えていきたいと思いますが、良い案がありましたら、お知らせください。

・次回発行予定は、3月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

